答え

第4回
東京水クロスワードパズル

キーワード　す A　い B　ど C　う D

↓ タテの鍵

1 東京の水道の歴史は、遠く江戸時代に遡ることができます。江戸時代の水道は上水とも呼ばれ、石や木で造られた水道管（石樋及び木樋）によって上水井戸に導かれ、人々はそこから水をくみ揚げて**いんりょうすい**・生活用水として使用しました。

2 玉川上水は、多摩川中流の羽村取水口から四谷大木戸までに至る総距離約43kmの上水路です。約43㎞の区間を約92mの標高差を利用して水を**ながす**よう設計されており、当時の水利技術の高さがうかがえます。

3 東京都水道**れきしかん**では、神田上水や玉川上水などの江戸上水から、近代水道の創設、現在の水道に至るまで、規模・水質ともに世界有数のレベルに達した東京水道の歴史や技術を、実物資料や再現模型、映像資料などでわかりやすくご紹介しています。

4 江戸時代にも水道**りょうきん**はありました。水銀(みずぎん)とよばれ、町人は、住んでいる家の敷地の入口のはば、武士は石高（給料）で決められていました。

→ ヨコの鍵

5 江戸上水の起源は、天正18年（1590年）、徳川**いえやす**の江戸入府時に開設された小石川上水といわれ、これは後に神田上水へと発展したと考えられています。

6 玉川上水は江戸時代の代表的な水道です。人が増え続ける江戸（今の東京）に水が足りなくなったため玉川**きょうだい**たちによって作られました。

7 東京都の水が、今のように浄水場できれいにされ、鉄の水道管を通って運ばれ、じゃ口から使われるようになったのは、明治31（1898）年に淀橋浄水場ができてからです。これが**きんだい**水道の始まりです。

8 淀橋浄水場は東京都で一番初めにできた浄水場です。今は役目を終え、その跡地には**とうきょう**都庁や高層ビルなどが建っています

9 奥多摩**みずとみどり**のふれあい館は、水と自然の大切さ、ダムの仕組みや奥多摩の歴史などを分かりやすく紹介する施設です。館内には、迫力ある立体映像の「奥多摩3Dシアター」などがあり、映像や展示を通して楽しく体験しながら学ぶことができます。

10 水道の蛇口をひねるといつも普通に出てくる「水」。その水がいったいどこで生まれて、どこを流れ、私達の所まできているのか考えたことはありますか。東京都水の**かがくかん**は水の不思議と大切さを科学の視点で紹介し、水と水道への興味を深める体験型ミュージアムです。